

糖尿病の薬物治療体験を通じた臨床薬学教育の試み

○菊池 千草¹, 前田 徹¹, 木村 和哲¹, 今枝 憲郎²(¹名市大院薬, ²名市大院医)

【目的】患者にとって、いかに糖尿病の薬物治療を継続することが難しいかを薬学生に体験・理解してもらうために、糖尿病の薬物治療体験学習を実施したので報告する。

【方法】名古屋市立大学薬学部学生および大学院生の計 11 名を対象とし、以下の手順で体験学習を行った。①本体験学習についての説明、②糖尿病薬物治療に必要な知識の講義、③体験する治療内容（2 種類のインスリン併用、あるいはインスリンと内服薬の併用、あるいは 2 種類の内服薬の併用）と実施方法について説明、④2 週間の薬物治療体験、⑤体験参加者によるディスカッション。この体験学習の有用性を評価するために、糖尿病薬物治療に関するアンケートを②の講義の前と⑤のディスカッションの後で行った。

【結果】体験学習前アンケートの結果では、ノンコンプライアンスの原因としては、内服ではライフスタイル、注射では注射に対する抵抗感という回答が多かった。体験後では、食前は忘れやすいという回答が多かった。

【考察】この教育方法の有用な点は患者側の問題だけでなく医療提供者側の問題もあることを理解することと考えられた。具体的には患者側の問題としてライフスタイルや注射に対する抵抗感、医療提供者側の問題点として薬の用法があげられる。今後は臨床薬学教育に体験学習を取り入れることにより、学生が患者を理解し、患者の立場になって考えることができる教育方法の確立を目指していきたい。